

上位計画

◆日本万国博覧会記念公園の活性化に向けた将来ビジョン (2015. 11)

(基本方針3) 緑の中で人々が憩い活動し自然の美に感動する公園

○日本の文化と美を体感できる質の高い日本庭園の整備

- ・日本庭園の魅力を維持、向上させるための質の高い管理
- ・見所となる美しい景観や園内の快適性の向上など日本庭園の新たな魅力を創出
- ・4つの時代(上代、中世、近世、現代)の作庭技術と考え方を示し、特に景観の優れた見所「八景」を設定



八景：心字池



八景：松の洲浜

◆日本庭園改修基本計画 (2016. 3)

(基本方針)

- ・園路のバリアフリー化
- ・サインのユニバーサルデザイン化
- ・ソフト展開による新たな魅力付け



【松の洲浜改修イメージ】

○庭園全体の施設の整備方針を策定

○八景別に施設整備を含む整備方針を策定

◆日本庭園景観整備方針 (2019-2023年)

(第4次計画) (2019. 3) ※5ヶ年毎に作成

- ・前計画(第3次計画)の段階でおよその骨格景観をつくってきたが、台風の影響により甚大な被害を受けたため、影響箇所を中心に作庭当初の設計意図と比較し、「作庭当初の見所回復」を長期的(優先的)な目標として設定
- ・主要景観・見所ポイントを16景・58視点場で管理



16景・58視点場一覧図

庭園改修計画

庭園整備の基本方針

植栽管理計画

◆50年経過を契機とした検証 (2020年度)

○検証の視点

- ①文化財登録による効果・制限
- ②「現在」と「作庭意図/当初」の景観の整合性など

○検証結果

- ①効果:「保存」「活用」の意識向上、「認知度」の向上
制限:改修等に際して事前の届け出が必要
- ②「周辺建築物の増加」や「樹木の生長」、「施設の老朽化」などによる眺望・景観バランスの変化

○対応方針

- ①登録記念物への登録
- ②[ハード] 作庭意図・デザインの維持・継承
[植栽] 眺望・景観回復に向けた植栽管理
[ソフト] 特色を活かしたイベント、プロモーションの実施

○委員意見

- ・その時々での運営管理の考え方によって施設改修が行われてきた経過があり、揺れ動くことのない軸としても文化財登録は有効。
- ・今後は、「保全」と「活用」の両輪でバランスをとりながら進めていくことが大事。

◆日本庭園アクションプラン作成等のための基礎検討 (2021年度)

○登録記念物への登録に向けた整理

- ・本質的価値の検討
- ・本質的価値を構成する要素の抽出

○バリアフリーの課題と対応策の検討

- ・基本的視点及び対応箇所の抽出
- ・対応策の検討など



「本質的価値を構成する要素」として抽出された茶庭

◆2021年度の緑整備部会における主な意見

○本質的価値と構成要素について

- ・「最新の造園技術」の具体例について、素材や意匠も含めて調査し、可能なものは随時追加していくことが望ましい。
- ・各地の登録記念物の事例を調査し、本質的価値を保ちながら魅力向上ができる方策について検討することが望ましい。
- ・箇所が特定できないため構成要素としなかった植栽や施設については、「保存活用計画」の中で保存管理の方向性を検討してほしい。

○バリアフリー化について

- ・本質的価値を損なわないバリアフリー化の事例収集が必要である。
- ・バリアフリー化の際、復旧できるよう元の材料を損なわないことや記録を残すことが重要である。
- ・ハード改修については、庭園意匠を考慮した検討が必要。
- ・ハード・ソフト両方の対応策を詳細に検討する必要がある。
- ・ルート提示や魅力的な景観を紹介するバリアフリーマップの作成は早期に実現することが望ましい。
- ・指定管理者と連携してサポートを行う際には、魅力的な景観の紹介など多様な支援ができるよう、スタッフの体制づくりについても検討することが望ましい。
- ・ソフト対策は特にこれから進歩が期待され、ハード対策をソフト対策に置き換えられることも増えてくると考えられる。柔軟な対応や検討が必要。

◆日本庭園アクションプラン (2023. 4策定予定)

○保存活用計画(案)の策定

- ・日本庭園の本質的価値と構成要素
- ・日本庭園の現状と課題
- ・保存管理の方向性と具体的取組(植栽や水景の維持保全等)
- ・活用の方向性と具体的取組(特色を活かしたイベント、プロモーション等)
- ・整備の方向性と具体的取組(施設等の保存修復、活用のための整備等)



紅葉まつりライトアップ (2021. 11)

○施設改修計画

- ・老朽化施設改修
⇒舗装(石張、アスファルト等)、池護岸、茶室門、石積花壇、模型など
- ・バリアフリー改修
⇒段差、舗装改修など



【蓮池周辺本石舗装】



【茶室門】



【中央休憩所前模型】

登録記念物の登録 (2023年度の登録を目指す)

（1）本質的価値の検討

「日本庭園基本設計書(S43.4)」及び「日本政府出展『日本庭園』」から、万博日本庭園の本質的価値に係わる事項を抽出し、それを基に以下のように本質的価値を整理

○万博日本庭園の本質的価値に係わる事項の抽出

- 1) 「昭和45年に大阪府下千里丘陵において開催される日本万国博覧会に日本政府が出展する施設の一つとして「日本庭園」を建設することとなり、この建設を担当する建設省の委託を受けて、社団法人日本公園緑地協会が農学博士田治六郎氏を主任設計者として、この基本設計を策定し、昭和43年4月1日に建設大臣がこれを決定した。」（基本設計(S43.4)）
- 2) 「日本政府が庭園を出展することとした意義は、大きく分けて二つあります。その一つは博覧会の入場者にいこいの場を提供する事です。…多数の人びとの利用に供するため、その規模も日本庭園として画期的な広さとなりました。もう一つは、日本の誇りうる造園技術を展示する事です。…この伝統的な造園手法に現代の新しい技術と感覚を加えた庭園を造って、日本ではじめて開かれる万国博に出展するとともに現代の代表的な造園として永久に残すこととしました。」（日本政府出展「日本庭園」）
- 3) 「日本万国博覧会のテーマ「人類の進歩と調和」にふさわしいわが国の伝統的ならびに最新の造園技術の粋を集めた最高水準を示す。」（基本設計(S43.4)）
- 4) 「設計の根底をなす思想は、自然と人間の調和ある世界の創造であり、この思想を基に、自然の地形を利用して、西端の源泉から東に向かって渓谷を流れ平野に至る感じの水流を構成し、この水の流れを庭園の基調として、この流れに人類の進歩と時の流れを象徴させ全体として調和のとれた一つの作品を創ることを意図した。この意図の表れとして、設計は、日本庭園がたどって来たそれぞれの時代の特徴的手法を取り入れるとともに単なる時代展示としてではなく、現代的な感覚による新しい一体の現代庭園とした。」（基本設計(S43.4)）

○万博日本庭園の本質的価値

- 『日本万国博覧会（EXPO '70）の遺産としての歴史文化的価値』
 - ・計画当初より永久に残すことが意識され、万国博の開催後50年以上にわたり良好に残され、利用に供されていること
 - ・自然の地形を利用した水の流れに「人類の進歩」と「時の流れ」を象徴させることによって、万国博のテーマ「人類の進歩と調和」を表現した庭園意匠
 - ・世界中から訪れる多くの万国博入場者にいこいの場を提供するため、日本庭園として画期的な広さを確保したこと
- 『伝統的ならびに当時最新の日本の造園技術を結集した昭和の代表的庭園としての価値』
 - ・平安時代の寝殿造庭園や中世の茶庭や石庭、江戸時代の回遊式庭園など、日本庭園がたどって来た各時代の特徴的な造園技法を取り入れるとともに、全体として調和のとれた新しい時代の庭園としてまとめられている点
 - ・万国博のテーマ「人類の進歩と調和」にふさわしいわが国の伝統的ならびに当時最新の造園技術の粋を集め最高水準を示すことを目指した点
 - ＜当時最新の造園技術例＞自然石ではなく大小の切石（花崗岩）を用いた、鯉池の護岸石組等

■引用資料

- 1) 日本庭園基本設計書（S43.4建設省都市局、日本公園緑地協会）：「基本設計(S43.4)」と記す。
- 2) 万博日本庭園造庭誌（S55.9万博日本庭園造庭誌編集委員会）：「造庭誌(S55.9)」と記す。
- 3) 万博日本庭園について（S45.6.25講演の抄録 田治六郎）：「講演抄録(S45.6)」と記す。
- 4) 日本政府出展「日本庭園」（建設省都市局公園緑地課）：「日本政府出展〔日本庭園〕」と記す。

（2）本質的価値を構成する要素の抽出

●抽出のステップ

ステップ①【設計意図】の読み取り

- ・「基本設計(S43.4)の「基本設計総説」等の記述から【設計意図】を読み取る。

ステップ②【作庭上のポイント】の読み取り

- ・「基本設計(S43.4)」、「造庭誌(S55.9)」、「講演抄録(S45.6)」に載せられた設計・施工内容から【作庭上のポイント】を読み取る。

ステップ③【主要構成要素】と【関連構成要素】の検討・抽出

【主要構成要素】

- ・①「設計意図」及び②「作庭上のポイント」を構成している要素を【主要構成要素】として抽出する。

【関連構成要素】

- ・【主要構成要素】とともに庭園の景をなす要素についても【関連構成要素】として抽出する。抽出にあたっては、作庭当初より存在する施設のうち、「造庭誌(S55.9)」の「基本設計及び工事概要各論」に記載の施設を抽出する。

【主要構成要素】

- ・「設計意図」および「作庭上のポイント」として記載があり、現存するもの
例) 石組み、滝、溪流など



【関連構成要素】

- ・既存資料に記載があり、作庭当初から残されているもの
例) 石張り舗装、石縁石など



ステップ④【設計当時のスケッチによる確認】

- ・③で抽出した各要素が具体的にどの場所のどの要素であるのかを明らかにするため、「基本設計(S43.4)」、「造庭誌(S55.9)」に示されている11枚のスケッチを基に確認を行う。

ステップ⑤【現地踏査による検証】

- ・④に加え、各要素が現存しているか、また、該当範囲などを現地踏査により明らかにする。

ステップ⑥【本質的価値を構成する要素】の抽出

- ・①～④で抽出した【主要構成要素】58項目のうち、以下の要素を【本質的価値を構成する要素】として抽出。→38項目を抽出

○基本設計等の資料および現地確認で対象範囲および箇所が特定できるもの。

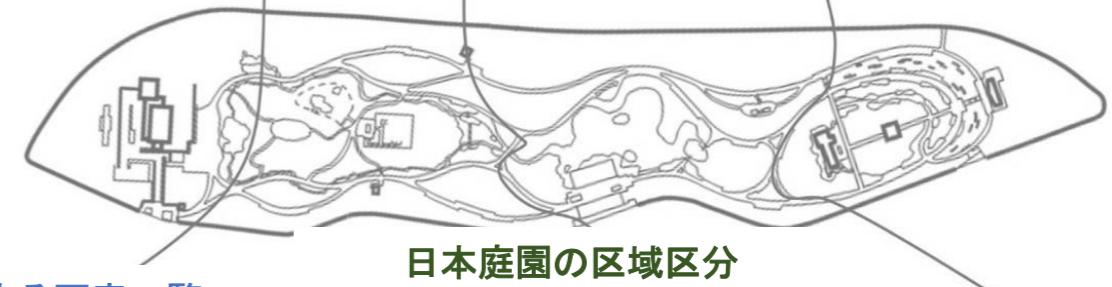
○植栽は上記に加え、「日本庭園銘木大木位置図」（公園部業務概要書-緑地編-S57.3）を基に特定可能で生育良好な樹木

※その他の樹木は保存活用計画等の策定により保存管理を行う方針とする。

万博日本庭園の本質的価値と構成要素（2）

- ・右図の4つの区域ごとに、万博日本庭園の本質的価値を構成する要素を整理
- ・下表の通り、「地形・地割」6項目、「水景」9項目、「石組・景石」3項目、「点景物」1項目、「植栽」3項目、「園路」7項目、「建物・建物関連」9項目、合計38項目の構成要素を抽出した。

1. 上流（西端区） 2. 中流（山谷区） 3. 下流（山麓区） 4. 最下流（東端区）



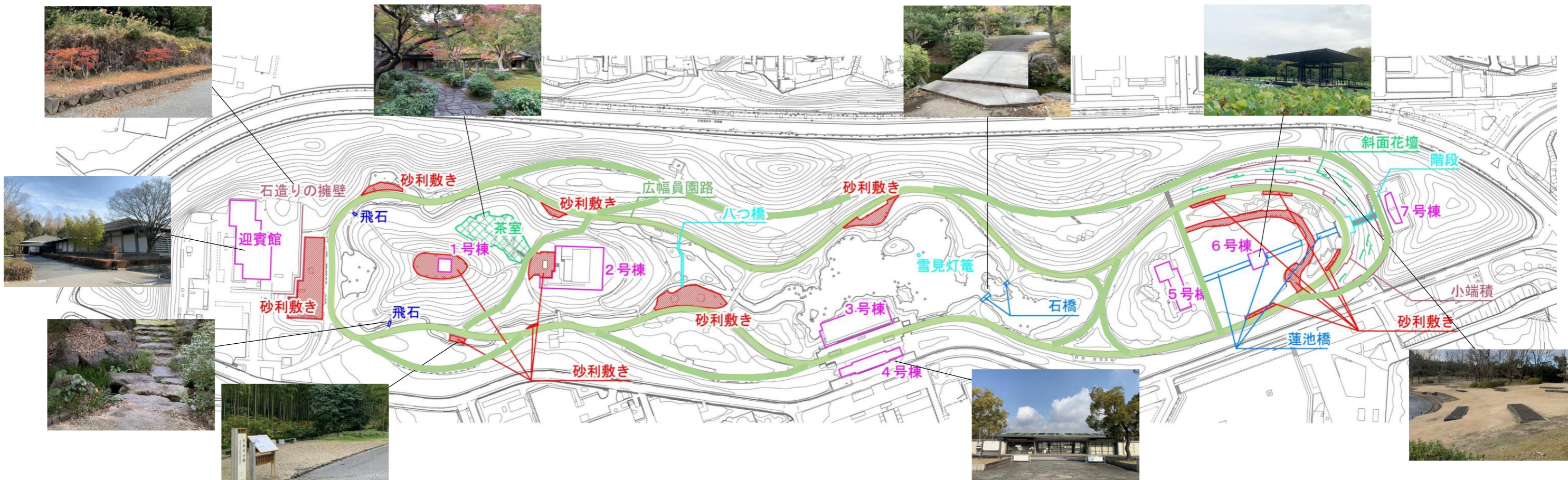
万博日本庭園の本質的価値を構成する要素一覧

エリア	1. 上流（西端区） 上代		2. 中流（山谷区） 中世				3. 下流（山麓区） 近世		4. 最下流（東端区） 現代	
	1-1	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	4-1	4-2	
地形・地割	・北側山地 ・広場	・緩やかな山			・遮蔽植樹帯 (石積み、盛土含)	・芝山	・芝山 (第二山区)			
水景	・泉(岩組合) ・滝(岩組合)		・溪流(岩組合)	・洲浜(3つの島、石庭含)	・小流(石組合)	・心字池(石組、滝、池畔、中島含)		・鯉池(切石組、滝、護岸含)	・蓮池 ・菖蒲田	
石組・景石	・石造りの擁壁								・斜面花壇 ・小端積	
点景物							・雪見灯籠			
植栽			・ヤマモミジ (銘木)				・クロマツ(銘木) ・モミジ類(銘木)			
園路	・砂利敷き(全域) ・ 広幅員園路(幅員4m~6mの園路)(全域)		・飛石	・八つ橋 (木造橋)		・石橋(2箇所)			・蓮池橋 ・階段	
建物・建物関連	・迎賓館	・茶室(汎庵、万里庵)(茶庭、石階段含) ・1号棟(休憩所) ・2号棟(千里庵; 茶庭、石積み、階段、石張舗装含)					・3号棟(中央休憩所) ・4号棟(中央門)	・5号棟(休憩所)	・6号棟(休憩所) ・7号棟(展望台含)	

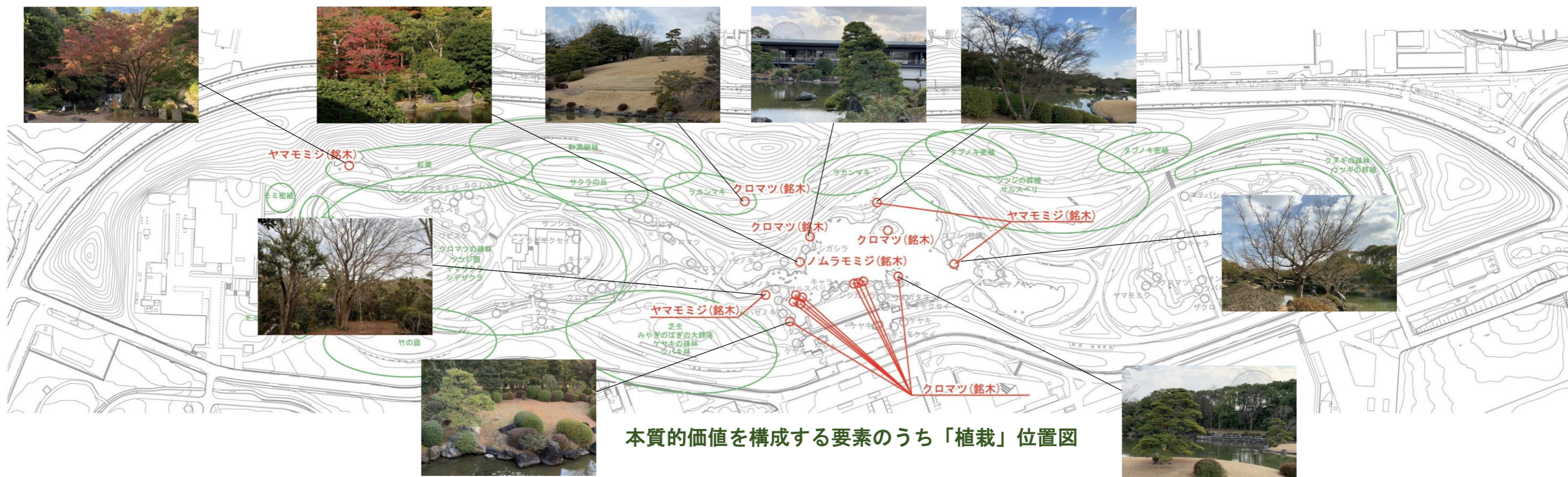


本質的価値を構成する要素のうち「地形・地割」「水景」位置図

万博日本庭園の本質的価値と構成要素 (3)



本質的価値を構成する要素のうち「石組・景石」「点景物」「園路」「建物・建物関連」位置図



本質的価値を構成する要素のうち「植栽」位置図

※図中の赤字が「本質的価値を構成する要素」
 緑字は箇所が特定できなかった、または生育不良等により採用しなかった要素

①本質的価値の記載内容について

1. 『日本万国博覧会（EXPO '70）の遺産としての歴史文化的価値』

・日本ではじめて開催された万国博における政府出展施設⇒①万国博のレガシー
 ・万国博のテーマ「人類の進歩と調和」に沿って、水の流れを主題とし、この流れに「人類の進歩」と「時の流れ」を象徴⇒②万国博のテーマに沿った庭園の意匠
 ・世界中から訪れる多くの人々の利用に供するため、日本庭園として画期的な広さで建設された ⇒③万国博の入場者を受け入れるためのスケール感
 ・計画当初から現代の代表的な庭園として永久に残すことを決定
 ⇒①万国博のレガシー
 ・開催後も50年以上にわたり、太陽の塔などと共に当時の様子を伝え、利用に供されている⇒①万国博のレガシー

左記5つの項目は、
 ①万国博のレガシー
 ②万国博のテーマに沿った庭園の意匠
 ③万国博の入場者を受け入れるためのスケール感の3つに分類される。
 この分類により、今後は右記の3項目を本質的価値として掲げたい。

①万国博のレガシー
 ・計画当初より永久に残すことが意識され、万国博の開催後50年以上にわたり良好に残され、利用に供されていること
 ②万国博のテーマに沿った庭園の意匠
 ・自然の地形を利用した水の流れに「人類の進歩」と「時の流れ」を象徴させることによって、万国博のテーマ「人類の進歩と調和」を表現した庭園意匠
 ③万国博の入場者を受け入れるためのスケール感
 ・世界中から訪れる多くの万国博入場者にいこいの場を提供するため、日本庭園として画期的な広さを確保したこと

2. 『伝統的ならびに当時最新の日本の造園技術を結集した昭和の代表的庭園としての価値』

・万国博のテーマ「人類の進歩と調和」にふさわしいわが国の伝統的ならびに当時最新の造園技術の粋を集めた最高水準を目指した
 <当時最新の造園技術例> 自然石を用いず大小の切石（花崗岩）を用いた、鯉池の護岸石組など
 ・日本庭園がたどって来た各時代の特徴的手法を取り入れるとともに、全体として調和のとれた新しい時代の庭園としてまとめられている。

・万国博のテーマ「人類の進歩と調和」にふさわしいわが国の伝統的ならびに当時最新の造園技術の粋を集め最高水準を示すことを目指した点
 <当時最新の造園技術例> 自然石ではなく大小の切石(花崗岩)を用いた、鯉池の護岸石組等
 ・平安時代の寝殿造庭園や中世の茶庭や石庭、江戸時代の回遊式庭園など、日本庭園がたどって来た各時代の特徴的な造園技法を取り入れるとともに、全体として調和のとれた新しい時代の庭園としてまとめられている点

②本質的価値を構成する要素の追加について：「広幅員の園路」の構成要素としての位置づけ

・文化庁調査官の現地視察時（R4.2）に、概要の説明等において「『当時、世界の沢山の人に同時に利用してもらうため広幅員の園路が必要になった』というような経緯など、庭園の見せ方が他の日本庭園と違う点について、評価すべき項目としていれておいた方がよいのではないか。」という旨の助言があった。
 ・令和4年度日本庭園改修工事（竹林）において、景観創出のため園路を狭める構想となっていたが、上記の助言を踏まえ、広幅員の園路が万博遺産としての日本庭園の特徴の一つとなっていることから、園路の形状を変更することは好ましくないと判断し、園路は現在の形状を保存することとした。

・令和3年度決定事項として、「園路（アスファルト舗装）」は、関連構成要素に位置づけられているが、関連構成要素は、形状変更を伴う改修に制限がかからないことから、「広幅員の園路」を「本質的価値を構成する要素」とすることにより、今後も持続的に形状変更を伴う改修に制限をかけたい。
 ・本質的価値「世界中から訪れる多くの人々の利用に供するため、日本庭園として画期的な広さで建設された」について、「広幅員の園路」はその価値を体現する要素と捉えられるのではないかと。
 ※造庭誌 基本設計総説〔多数の入場者に対する配慮〕に「3、4千人を適正な入園者と想定しているが、より以上に多くの入園者のあることを考慮し園路の中員を広くし…」とあり、スケッチ「竹林の図」等にも確認することができる。

「本質的価値を構成する要素」に万国博開催時多くの入場者を受け入れるため確保した「広幅員の園路」を追加することにより、万国博遺産としての価値を保存していきたい。「広幅員の園路」は、以下の考え方により幅員4～6mとしたい。
 ①全ての幹線園路（5～6m）
 ②主要な支線園路（4m以上）←動線計画の中で幹線を補うものとして、幹線に準じた形状で優先的に整備されており、総延長においても支線園路の大部分を占め、視覚的にも明らかに広幅員と捉えられる。

③構成要素の分類について

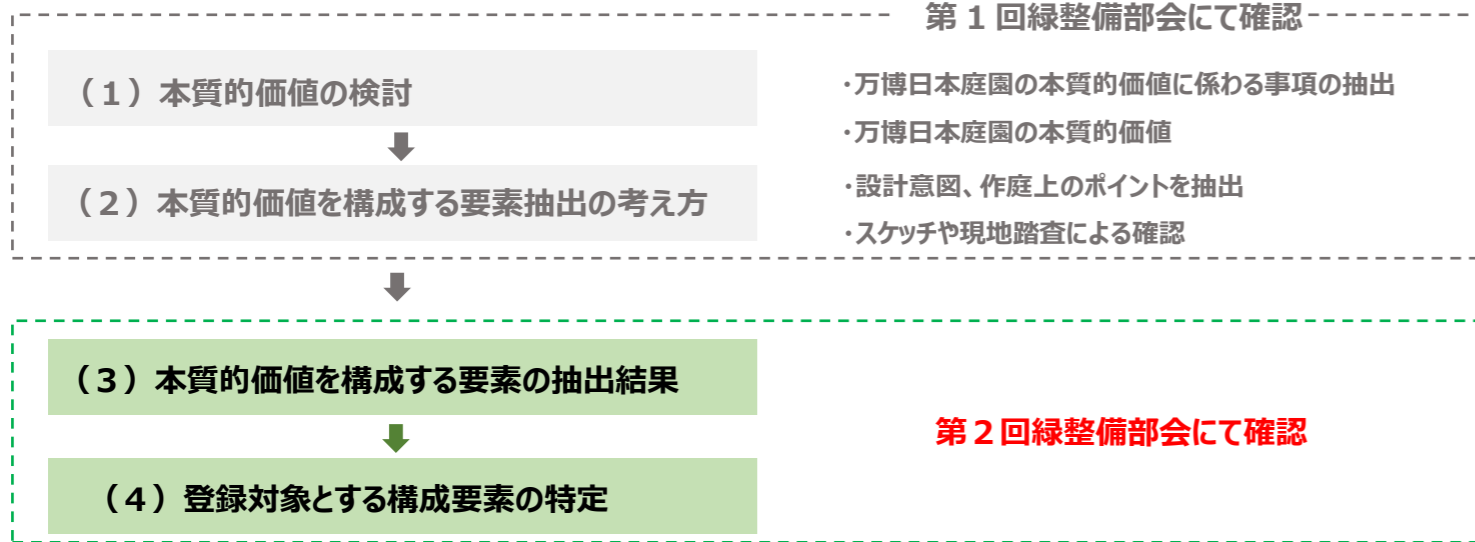
・「水の流れ」は万博のテーマ「人類の進歩と調和」に沿って「人類の進歩」と「時の流れ」を象徴する主題となっており、本質的価値を表す重要な役割を担っている。「水景」として他の要素とは別に一つの分類として抽出することにより、本質的価値と構成要素の結びつきがより明確になるのではないかと。
 ・日本庭園の要素の分類としては「工作物」より「点景物」の方が分かりやすいのではないかと。

<分類案>

現分類	要素	新分類案
地割・地形	泉（岩組含）	水景
	溪流（岩組含）	
	滝（岩組含）	
	洲浜（三つの島、石庭含）	
	小流（石組含）	
	心字池（石組、滝、池畔、中島含）	
	鯉池（切石組、滝、護岸含）	
	蓮池	
	菖蒲田	
	工作物	

登録記念物への登録に向けた構成要素の特定について (1/4)

1. 検討のフロー (R3)



2. 本質的価値の検討 (前回指摘修正点)

○万博日本庭園の本質的価値

- 『日本万国博覧会 (EXPO'70) の遺産としての歴史文化的価値』
 - 日本ではじめて開催された万国博における政府出展施設
 - 万国博のテーマ「人類の進歩と調和」に沿って、水の流れを主題とし、この流れに「人類の進歩」と「時の流れ」を象徴
 - 世界中から訪れる多くの人々の利用に供するため、日本庭園として画期的な広さで建設された
 - 計画当初から現代の代表的な庭園として永久に残すことを決定
 - 開催後も 50 年以上にわたり、太陽の塔などと共に当時の様子を伝え、利用に供されている
- 『伝統的ならびに当時最新の日本の造園技術を結集した昭和の代表的庭園としての価値』
 - 万国博のテーマ「人類の進歩と調和」にふさわしいわが国の伝統的ならびに当時最新の造園技術の粋を集めた最高水準を目指した
 〈当時最新の造園技術例〉
 自然石を用いず大小の切石 (花崗岩) を用いた、鯉池の護岸石組 など
 - 日本庭園がたどって来た各時代の特徴的手法を取り入れるとともに、全体として調和のとれた新しい時代の庭園としてまとめられている

3. 本質的価値を構成する要素の抽出結果

第1回部会にて示した抽出方法により、【主要構成要素】及び【関連構成要素】を抽出。

- 抽出結果 : 【主要構成要素】: 5 8 項目 (右表)
 - 「地形・地割」15 項目、「園路」6 項目、[石組・景石] 4 項目、「植栽」23 項目、「建物・建物関連」9 項目、「工作物」1 項目
- 【関連構成要素】: 19 項目
 - 「園路」8 項目、「植栽」1 項目(19 種)、「石組・景石」1 項目
 - 「休憩施設」9 項目

4. 登録対象とする構成要素の特定

- 対象要素: 【主要構成要素】5 8 項目 (下表) から、登録対象とする構成要素の特定を行う。
- 特定の考え方:
 - 基本設計等資料及び現地確認で対象範囲及び箇所が特定できるもの
 - 植栽は上記に加え、「日本庭園銘木大木位置図」(公園部業務概要書-緑地編-s 57・3)を基に特定可能で生育良好な樹木 → その他樹木は保存活用計画等の策定により保存管理を行う方針とする。
- 名称について:
 - 基本設計等資料及び当時の案内冊子「日本庭園 JAPANESE GARDEN」(S45)に示されている名称とする。
4号棟/正門 → 「4号棟(中央門)」
- 登録対象要素: 【主要構成要素】3 7 項目「地形・地割」15 項目、「園路」6 項目、[石組・景石] 3 項目、「植栽」3 項目、「建物・建物関連」9 項目、「工作物」1 項目

エリア	No.	分類	主要構成要素名	登録要素	エリア	No.	分類	主要構成要素名	登録要素			
1-1	1	地形・地割	北側山地	○	1-1	6	植栽	モミ密植、イヌマキ密植	-			
1-1	2		泉(岩組含)	○	2-1	3		クロマツの疎林	-			
1-1	3		広場	○	2-1	4		ツツジ類	-			
2-1	1		緩やかな山	○※植栽を除く	2-1	5		ヤマザクラ、シデザクラ	-			
2-2	1		溪流(岩組含)	○	2-2	4		ヤマモミジ(銘木)	○			
2-2	2		滝(岩組含)	○	2-2	5		紅葉	-			
2-3	1		洲浜(三つの島、石庭含)	○	2-4	3		竹の庭	-			
2-4	1		遮蔽植樹帯(石積み、盛土含)	○※植栽を除く	2-4	4		芝生	-			
2-4	2		小流(石組含)	○	2-4	5		針葉樹林	-			
3-1	1		心字池(石組、滝、池畔、中島含)※	○	2-4	6		ケヤキの疎林	-			
3-1	2	芝山	○	2-4	7	みやぎのはぎの大群落	-					
3-2	1	芝山(第二山区)	○	2-4	8	ツバキ林	-					
4-1	1	鯉池(切石組、滝、護岸含)	○	2-4	9	サクラの丘	-					
4-2	1	蓮池	○	3-1	4	クロマツ(銘木)	○					
4-2	2	菖蒲田	○	3-1	5	モミジ(銘木)	○					
1-1	4	園路	砂利敷き(全域)	○	3-1	6	ラカンマキ	-				
2-2	3		飛石	○	3-1	7	モチノキ(銘木)	-				
2-3	2		八つ橋(木造橋)	○	3-2	2	ツツジ群植	-				
3-1	3		石橋(2箇所)	○	3-2	3	タブノキ密植	-				
4-2	3		階段	○	3-2	4	コブシ	-				
4-2	4		蓮池橋	○	3-2	5	サルスベリ	-				
1-1	5	石組・景石	石造りの擁壁	○	4-2	7	クヌギの疎林	-				
2-1	2		捨石風の石組	-	4-2	8	ウツギの群植	-				
4-2	5		斜面花壇	○	1-1	7	迎賓館	○				
4-2	6		小端積	○	2-1	6	茶室(汎庵、万里庵; 茶庭、石階段含)	○				
							建物・建物関連	2-1	7	1号棟(休憩所)	○	
								2-1	8	2号棟(千里庵; 茶庭、石積み、階段、石張舗装含)	○	
								3-1	8	3号棟(中央休憩所)※	○	
								3-1	9	4号棟(中央門)	○	
								4-1	2	5号棟(休憩所)	○	
								4-2	9	6号棟(休憩所)	○	
								4-2	10	7号棟(展望台含)	○	
								3-1	10	工作物	雪見灯籠	○

※「日本庭園 JAPANESE GARDEN」(S45)の案内名称より記載